The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	a+a 美学研究　第12号　裏表紙
Author(s)	
Citation	a+a 美学研究. 2018, 12
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90126
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ISSN 1346-1095

序論
田中 均　008

演劇の批判と弁護
クリストフ・メンケ　012

ルソーとシアトロクラシー
——『ダランベール氏への手紙』における「見せもの（スペクタクル）」の近代性
田中 均　028

モーリッツ「演劇への不幸な傾倒」における演劇狂と健全な市民
——教育的言説の批判的考察
梶原将志　042

「大衆をほぐす」
——シアトロクラシーと映画（館）
海老根 剛　056

音楽（ムジーク）＝劇（テアーター）の批判的構成のために
——ベンヤミンとアドルノの美学を手がかりに
柿木伸之　072

今日のアートにおける批判とは何か
——参加型アートを中心に
石田圭子　088

演劇とアール・ブリュット
——ヴァレール・ノヴァリナの俳優論を中心に
井上由里子　104

「花の下」連歌における〈観客〉の発生と融解
土田耕督　118

特別寄稿
ボエティウス『音楽教程』における音楽観
——音楽の三分類と音楽家の規定をめぐって
田之頭一知　136

エッセイ　150
音楽の欠片1　開演前　河口 篤
美学は言葉を考える　高安啓介
エッセイを書く面白さ　山下泰春
音楽の欠片2　勝手な聴き手　河口 篤

既刊紹介・広告　158
執筆者紹介　160

「観客の支配」を意味する「シアトロクラシー」（テアトロクラティア）という言葉は、もともと古代ギリシアの歌舞において、古くから伝承された決まりが守られるべきか、それとも観客大衆の楽しみを優先して新たな実験がなされるべきかという争いのなかで生まれた。哲学者プラトンは、歌舞における伝統の否定としての「シアトロクラシー」から、政治における権威の否定としての「デモクラシー」が生まれたと論じている。つまり「シアトロクラシー」とは「観客」という集合的存在を通じて芸術と政治とを架橋する概念であり、近代において、ルソー、ニーチェ、ベンヤミンらのテクストのなかで潜在的・顕在的に重要な役割を果たし、現代の哲学者たちによってあらためて注目されている。はたして「観客」であるということは、幻影に惑わされ無力化されることを意味するのか、それとも「観客」であることのうちには自由へのポテンシャルが含まれるのか、ということがこの言葉によって問われている。